

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

技術士に求められる資質能力のひとつに「コミュニケーション」があります。人との交流や会話が好きな私が働き始めてから最も大事にしてきたことです。建設コンサルタント業務は、いろいろな課題を解決していく中で、発注者はもちろん、他のコンサルやゼネコンの方々、地元住民の方々と接したり、協議したりと、私に向いているやりがいのある仕事だと思っています。

現在携わっている業務内容は、数値計算や現地調査をはじめとし、設計以外に関する仕事はなんでもやっていますが、これらの業務を一人で完結できるまでの道のりは大変なものでした。そもそも大学が理系の工学部であるものの、情報系の学科にいた私は、土木の基礎知識など全く無い状態で業務に挑み、若い頃は発注者の要望どころか業務内容をよく理解しないまま、とにかく「一生懸命がんばろう、やればできる」と自分に言い聞かせて毎日进行していた事を覚えています。

そんな私を指導してくださった上司をはじめ、研究機関で論文を夜中まで添削してくださった博士、惜しみなく技術的な助言をくださった他コンサルの方々、技術士を取得しており、同じような立場で皆さんと仕事したいなあと思ったのが技術士取得を目指したきっかけでした。取得を目指してから数年、30代後半に一度口頭試験で不合格となり、一度諦めかけましたが、なんとか42歳で合格することができました。今思えば、不合格の経験は、自分を見つめなおすのに非常に良かったと捉えています。

私は、周りの方々に恵まれていなければ、技術士取得はおろか、仕事も続けていなかったと思います。皆様へ感謝し、今後は私もそう思われるような技術者になりたいと思います。

山下 卓也 (やました たくや)

●水産部門(水産土木)

勤務先

パブリックコンサルタント株式会社



→次号は、上條明日菜さん(水産部門)

私は、1996年(平成8年)に大学を卒業し、橋梁関連の仕事がしたいと思い、建設コンサルタント会社に入社しました。当時は、バブル崩壊により、就職氷河期に突入していました。また建設投資は、平成2年頃をピークに減少し続けていました。そんな状況をよく調べもせず飛び込んだ建設業界でしたが、平成19年には最初に入社した会社が倒産してしまいました。同じ会社に長くいることが困難な時代になったと感じたものです。今となっては貴重な経験をしたと思っています。

その後、幸いにも現在の会社である構研エンジニアリングに入社し、同じ橋梁関連の職につくことができました。現在の会社では、技術者評価型の入札制度に対応するため、技術士の取得が盛んで毎年、合格者を輩出していました。新しい職場の同僚や先輩たちをみて自分も早く技術士を取得して活躍したいと思ったものでした。技術士の受験は、平成20年に取組みはじめ3回目の平成23年になんとか合格することができました。上司からは「技術士は取得がゴールではない。取得してから技術士として何をするかが大事。」と言われ身が引き締まる思いになったのを今でも覚えています。ちなみに私の技術士登録日は、3月11日です。何かの暗示でしょうか。近年では、災害対応の機会が増え、ここで貢献しなければという社会的責任感や使命感に駆られます。社内外問わず多くの人たちとの協力が必要な災害対応は、技術力だけでなく組織力、それを発揮するためのマネジメント力が重要であることを教えてくれました。こうした災害対応力が技術士に求められる資質だと強く感じています。今後は、自己研鑽だけでなく、持続的な社会に貢献できるよう若手の育成、技術継承に励んでいきたいと思っています。

川村 幸司 (かわむら こうじ)

●建設部門
(鋼構造およびコンクリート)

勤務先

株式会社構研エンジニアリング
橋梁部



→次号は、青地知也さん(建設/総合技術監理部門)